



世界社会奉仕ですが、歴代のRI会長がおっしゃっているように、まず水問題についてはきれいな飲み水が手に入らない。今、10億の人々が手に入らない、25億の人々が手に入れるのに苦労している状態です。その境目は2Km以内に井戸や湧き水があるかどうかによって分けているとのこと、2Km以上あれば苦労するとしています。

次に識字率ですが、なぜ字が読めないかというと学校に行かないからです。その理由は授業料を払うお金がない、働かなければならないので学校へ行く時間がない、近くに学校がない等です。字の読めない人が仕事をしてお金を稼ぐのは非常に難しい状況です。オーストラリアで開発された字を教えるシステムを使って、タイでプロジェクトを行っているようです。

世界社会奉仕とは日本以外のクラブと協力して奉仕のプログラムを行うわけですが、ほとんどの場合、日本側がお金を出して相手クラブが実施するということになっています。一番大事なことはその結果どうだったかということです。ですから反対に日本でプログラムを行った場合は、結果を詳細に皆さんにお知らせすることができますと思います。

青少年交換についてですが、あまりはっきりした目的意識なしに子どもたちが来る場合もありますから、良い話ばかりでもありません。過去に強制送還された事例もあります。しかし、ただ単に預かった子どもというのではなく、素晴らしい出会いもあり、家族が一人増えたという得がたい経験もできます。どうか皆さんの奥様方に、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

WCSの事業を他国と協力して日本で実施されたということで、有田南RCさん、その時のお話をさせていただきますでしょうか。

韓国のRCと当有田南RCとの間で25年来の付き合いもあり、3年前に実施しました。以前から日本から韓国へという場合はスムーズに行えていたのですが、その時は逆に韓国から日本へということで心配もありました。その時は健康器具を老人ホームに寄付しました。今回もまた同じような事業を認めていただき、養護学校に寄付したところです。この地区では初めての試みということでしたが、そんなに難しくなく実施できました。

(インストラクター・PDG 小島 哲)

ありがとうございました。ただ皆さんのクラブでマッチング・グラウンドを申請しお金をいただくとなると、かなりのページ数の書類を用意する必要があります。記入はそう難しくはないと思いますが、何かありましたら有田南RCさんにお聞きになればと思います。

## 世界社会奉仕委員会

(次期世界社会奉仕委員長 京谷 知明)

世界社会奉仕(別称WCS)は、ロータリアンに、他とは非常に異った人道主義に溢れた親睦を深める機会を提供します。またWCSプロジェクトは、国際理解を深め、文化交流を推進する機会をつくります。WCSを通じて、クラブは海外での親善の絆を培い、ロータリーのイメージを高揚し、ロータリーの「超我の奉仕」という理想を推進することが出来る素晴らしいプロジェクトなのです。では、次年度における地区世界社会奉仕委員会の基本方針と活動計画についてお話をさせていただきます。



### 【基本方針】

水保全、保健と飢餓、識字率向上を重点に、「IMまたはクラブ単位でのクラブ主導型のWCS(世界社会奉仕)活動」を推奨したいと思います。皆様方が直接、どこかのクラブを検索することができるように地区でも協力したいと思います。クラブの自主性を最優先し、クラブが目標を達成する上で必要な情報と支援を提供したいと考えます。

### 【活動計画】

#### ① 地区WCSファンドの活用：

地区内のクラブから申請されているWCSプロジェクト「地区WCSファンド申請」を審査し、2640地区WCSファンドの適正運用に努め、プロジェクトの支援を行いたいと思います。次年度は一人当たり最高6000円です。申請の対象となるプロジェクトでは例えば、小・中学校を対象としたものは認められますが高校生以上については認めておりません。また個人に対するものも対象とはなりません。

#### ② 国際奉仕委員長会議の開催：

例年通り9月に実施予定しています。

③ 地区内クラブへの情報と支援：

地区のホームページにWCSの項目を設け、各クラブからの協力要請等を掲載していますので是非ご覧下さい。

④ 海外視察の実施：

私たち日本のロータリアンがする事。それは、世界の助けを必要とする人々に手を差し出してあげましょう。その為に、まずその現状を知り考え、知った事を多くの人に伝えましょう。昨年の地区WCS視察（97名参加）に引続き、本年度は地区として、「インドネシア共和国におけるWCSの海外視察」を企画し、現在120名の参加申込を頂いております。

是非、この機会にご家族など多くの方々と共に「現地に赴き」ロータリー活動の素晴らしさを体感し、WCS活動がいかに必要かを自分の目で見て、参加した全ての方に、ますます超我の奉仕に努めていただける素晴らしい企画を致しますので、ご参加下さいます様をお願い申し上げます。

## 青少年交換委員会

(次期青少年交換委員 吉岡 宏明)



毎年行っている内容は変わりませんが、毎月の会議・海外との通信・学生のフォローアップ等もあり委員会としては人手不足の状態です。お互いの国の文化等を理解することで、世界平和へ繋がるという趣旨で行っています。派遣する時の年齢が15～18歳の学生を、お互いの国で交換しています。このプログラムは、「派遣しよう・受け入れよう」となりますと3期がかりになりますので、クラブ内での理解が非常に重要になります。

ホストファミリーの件等、難しい部分もあるかと思いますが、ぜひ各クラブでローテックスの卓話の機会を持っていただいてご検討いただきたいと思います。地区として皆さんと一緒に前向きに考えていきたいと思っておりますので何でもご相談下さい。

また地域の学校関係者も重要になってきます。派遣学生の学校が、学生を受け入れることとなります。細かい対応も必要となりますので、クラブ全体で預かっているという意識を持っていただくことが重要です。今年度より、地区危機管理委員会も発足し、青少年交換学生の安全を未然に防ぐと共に、事故や事件への迅速な対応も行う体制を作っていきます。

私たちが一番感動を覚えるのは、交換学生が帰国する前の最後のスピーチです。全部、日本語でスピーチします。ホストファミリーやお世話になった方々への感謝で泣く子もたくさんいます。また向こうへ行っていた学生も帰国報告します。本当に素晴らしい感動を経験できますし、将来に向けてロータリーの理解者として育てることは大変意義深いことです。実際にローテックスの皆さんはロータリーの良さを理解しています。

どうか多くの学生の応募をお待ちしていますので、皆様方からクラブに伝えていただき、そしてこのプログラムの良さを、学校関係者にもお知らせいただきたいと思います。

また短期交換のプログラムは夏休みを利用して、3週間から1ヶ月くらいですので、長期交換のきっかけにもなるかと思っております。



## オン・ツウ・ロサンゼルス委員会

(次期オン・ツウ・ロサンゼルス委員長 楠見 雅信)

この委員会は世界大会への参加をお世話するという委員会です。少人数の委員会ですが、旅行社とタイアップして行います。世界大会ではジャパンナイトがありますが、本年度、ソルトレイクでは三軒ガバナーのご苦勞をねぎらうと共に、平原ガバナーエレクトの激励を目的に開催の予定です。

先ほど平原ガバナーエレクトのお話の中、次年度3つの目標の3番目に世界大会への参加を挙げておられます。各クラブの会長・幹事を始め、リーダークラスはぜひ参加いただきたいということです。IM単位で目標を立てて結集いただきたいというガバナーエレクトの意向ですので、ご協力をお願いします。

次年度世界大会についての情報は、出来るだけ早く皆様方にお届けしたいと考えています。国際委員長さんが取りまとめの窓口になっていただいでPRして下さいますようお願い致します。



## 質疑・応答

- ：地区ファンドの受領資格について、こちらで不要となった物を海外に寄贈する場合、その運搬にかかる輸送費は対象となるでしょうか？
- ：交換学生が渡航先で急遽予定を変更したいという場合、その対応はどうなりますか？
- 他

## 講 評

(アドバイザー・PDG 瀬戸 新一)



1991年にガバナーエレクトとして国際協議会へ行きましたが、その時の楽しさ、面白さは未だに忘れられません。まず時差ぼけを直すためにシカゴなどに、32名のエレクトが行きましたが、その時にある人は以前交換学生として預かった人との出会いがあり、2、3日間付ききりでお世話してくれたということで懐かしくされていました。その時、青少年交換にはこのようなこともあるのかなと感心した次第です。また以前、米山奨学生をお預かりしたことがありまして、今年の4月に突然25年ぶりに電話があり御坊にやって来ました。その時、「御坊に来ると、故郷に帰ってきたような気がします。」と申しておりました。国際奉仕には煩わしい部分もありますが、感動できる場所もあります。取り組みやすいところからでも結構ですから、積極的に活動していただきたいと思います。